

## 前期学校評価（保護者の声）令和元年6月24～28日

### 「自己肯定感について」

#### 1年

- ・自分のことを好きでいるようで安心しています。普段親として叱ることが多いですが、子どもが大切な存在である、ということを経々言葉にして伝えていきます。
- ・まずは子どもの気持ちを考えるようにしています。一人の人間として尊重することが子どもにも伝わると思っています。そうした日々の接し方ひとつで自己肯定感は生まれると思えます。「親から愛されている」子どもがそう思えるような、そんな親として、大人としての姿を示すことが大切ではないでしょうか。
- ・書き取りを一生懸命取り組んでいますがなかなか丸がもらえず、最初のころに比べてやる気が低下しています。花丸ではなくとも丸をいただけたら…。とはいえ、なんでも花丸では向上心を損なう気もするので、親でも「正しくほめる」ことは難しいと感じています。
- ・周囲の声かけの仕方が多大な影響を与える。否定的な表現や比較する表現は使わないように気を付けるべき。日々、絶対評価をすることを意識したい。
- ・頭では分かっていますが、どうしても怒ってばかりで…。
- ・自分を大切に思う心はあるとは思いますが、怒られたときに自分を責めてしまうところがあります。その時にはフォローをしますが、多少そういったところがあります。
- ・つつい厳しく言うてしまうことが多く、本人がどう思っているのか不安に思っています。
- ・自分から知らないところに飛び込んでいく子ではないので、学校環境に慣れるまでは本人も大変そうでした。自分はできると感じたことに関しては一生懸命やっておりますので、少々できなくても先生方も否定せず、温かく見守ってほしいです。
- ・いろいろ聞くと、ささいなこと褒めてばかりいると、自己肯定感を高めるのではなく、自己評価ばかりが高くなり、将来実際の自分と自己評価に差が出てしまい、プライドが高いわりに実際が伴わず、引きこもりになったり鬱になったりと聞きました。最近も、ただ褒めるのではなく、感謝するようにしています。
- ・書き取りは何度も消しては書いてを繰り返す、泣いたりもしましたが、できたときに思いっきり褒めて、自信がついたようです。成長を自分でも喜んでいる様子が見られます。先生から褒められる本読みカードのコメントはとても励みになっています。
- ・親が子供を肯定的にとらえることで、その積み重ねで育まれることだと思っています。
- ・子どもの話だけを信じてはいけないと思う反面、すべてを信じないのも良くないと思うので、難しいなと思います。
- ・周囲に自分のことを見てくれる人がいて、大事に思ってくれて、関わってくれる人が多いほど、自己肯定感が高まると思います。
- ・一緒にいる時間はお互い笑い合い、相手の話をよく聞く…、ということを経掛けたいですが、なかなかできていないのが現状です。それでも「甘やかす」「甘えさせる」の区別は気を付けて、スキンシップを増やしていけたらいいなと思います。
- ・自己肯定感が低く、今になって苦労している大人を見ると、高いことが重要と思うが、「自己肯定感」と言われ始めて育てられた世代が社会に出ていて仕事が進まないのを見ると、疑ってしまうところもある。
- ・時々ふと自分に対してネガティブな言葉を言うことが気になります。実際子どもの口から聞くと親としてショックです。大きな環境の変化から2カ月でトータルで見ればとてもうれしい成長の方が多いのですが、家でも様子を見ていこうと思います。
- ・幼稚園の時に比べて、友達作りに苦労しているようです。周りに元気な子が多いらしく、その子たちに合わせることに悩んでいるようです。自分らしく、無理しないように過ごす

ことの大切さを学校で教育してあげてください。

- ・自己肯定感の高い人間に育つには、親の愛情・家庭環境などと深く関係していると考えさせられる日々です。「できない」と言わず、「練習すれば何でもできる、上手になる」と何でも頑張る姿は褒めてあげたいです。
- ・失敗すると自分の頭をたたいたりするのを注意します。整理整頓ができないので心も乱れると思います。ランドセルの中を見ると、教科書がぐちゃぐちゃで、改善できていません。いろいろなことがだらしくなり心配です。自己肯定感にも影響してくると思います。学校の方からも、ランドセルの中の整理の仕方を言っただきたいと思っています。
- ・本読みカードを自分で書くようになってから、自分で準備をするようになりましたが、それで頑張りすぎて疲れてしまったり、全部できないとダメなんだという感覚が身に付いて、できないときがあっても大丈夫という逃げ道がなくなってしまうか気になります。自己肯定感、何よりもまず話を聞いてあげることが大事だと思うので、最後まで聞くように努めたいです。
- ・家でも学校でも、何か小さなことでもできることが増えたり、成功した時には、周囲の大人や子どもと一緒に喜び「できたね!」「うれしいね!」を共感、共有することの積み重ねが宝物になると思っている。学校は集団生活なので、できた時の喜びも大きいですが、できなかったときの挫折や傷つきも大きいと思う。傷つくのが怖いから、やる前に逃げるという選択をする子が増えている気がする。「できなくても大丈夫」「やってみることが大切」と家でも伝えていきたい。大人が子どもをしっかり見守っている、気にしていることが子どもに伝わっていることが大切だと思っている。
- ・家では、悪いことをした時など頭ごなしに叱るのではなく、本人の意見や考えを聞いたうえで叱ったり注意したりしています。生まれてから今まで、親がどんな思いでどんなふう育ててきたかなど話をするときもあります。

## 2年

- ・親の気持ちを押し付けることなく、ただ世間に迷惑をかけないように注意を払うことが大切だと思っています。
- ・マイペースな性格で、人に流されず自分をもっているのでありのままの自分を認めていると思います。
- ・手伝いをしてくれた時に小さなことでも「ありがとう」「助かるよ」「がんばったね!」と分かりやすいプラス言葉を伝えていきます。小さい一言でもうれしいようです。
- ・わが子自身は自分のことを大切に思い、それなりの自信をもっているようなので、今のところあまり心配はしていません。
- ・友達や家族をととても大切に思い、優しいところもあり、自分のこともとても大好きなんだと親から見て感じます。
- ・自分のことをダメとか、ネガティブなことはあまり言うことはない。できないことをできるように努力する姿勢がある。
- ・自分にもできる!自信をもつことを学んでほしいのでサッカーを習わせています。だめだったところも話しますが、それ以上に良いところを見つけて伝えて、やっと最近少しずつ自信をもっているように感じてきました。自分のことを大切に思うと、人にも優しく、人のことも大切にできるね、小さいころから教えています。
- ・自分の学力・身体能力・友達関係に満足していて、長所をたくさん言える。基本ポジティブで充実した生活を送っていると思います。
- ・2年生になってから爪や指の皮をかんだりすることが多く見られるようになってしまいました。心の方は大切にしていると思うのですが、自分の体の方ももっと大切にしてほしい

いと思います。

- 自己肯定感は低い方だと思います。自分のことは好きだと思いますが、自信のないものは拒絶したり困惑したりしてしまう傾向があり、落ち込むことが時々あります。運動は好きなようなので、そういう面では自信をもって楽しく過ごせるようです。
- 自分自身が自己肯定感が薄いと感ずるので、子どもには自分を好きになってくれるような声掛けや配慮が必要だと思う。
- 間違いを注意されたときに素直に認められないところがあります。得意なことに対し、負けず嫌いなところで長所を伸ばしながら、短所を直していかれたらと思います。
- 大変だったことや嬉しかったこと、辛かった気持ちを受け止めています。眠る前に楽しかったことを聞いたり、何か楽しいことを考えて眠るようにしています。
- 周りとは比べて「自分は…」といつも自信がもてない様子です。ほめても「どうせ自分なんか…」と。少しでも自信がもてれば、得意なことができれば、といろいろなことにチャレンジしていきたいです。
- お友達に左右されずに自分をもっていることも一つの自己肯定感だと思います。家では、彼女が得意とする「絵を描く」ことを褒め、自分はすごいんだと思えるように声掛けをしています。
- 何か悪いことをして怒られたときに「自分なんていなければいい」と泣くことがあります。
- 大人でも、今でも自分の性格、短所、損得で考えて動いている時は自分がいやになりますし、葛藤もします。大きくなっていく過程で、もっともっとそんな場面が増えると思いますが、人に迷惑をかけない、一人でも生きていける知恵を養うことを折に触れて言っています。
- 親がまず自分を認め、子を認めてあげる。子を認める時は「わたしは〇〇が大好きだよ。ダメなところも全部ふくめて好きだよ。味方だよ。応援してるよ。」と伝えるよう心掛けている。
- 優しい気持ちだけでは子供社会でさえも生き抜くのは過酷と感ずます。大人の対応をうかがいながらの賢さや、要領よくふるまえる子を見たりすると、その方が将来生きやすいのかもしれないと親も葛藤します。けれどもやはり自分を大切に思い、他者へも生き物にも優しく思いやりをもってほしい。自分を信じる力をもつ子は、きっと周りにも振り回されることのない「強い心」をもつ子なのかなと思います。
- 自己肯定感はどのくらい育ったかははっきりとわかるものではないので、良かれと思ってやっていることが良くないこともあると思うので、自己肯定感を育てるのは難しいと思います。何歳になっても生き方に影響を与えるものなので、自己肯定感はある方がよいと思っています。
- 少しずつ、人と自分は違って当たり前、ということ学んでいるのかな、と思っています。そうする中で、「自分は自分」で良いということにも気付いて、「人は人」ということも分かってくるのではないかと期待しています。
- 就寝前には「おやすみ」「愛してる」「I love you」と必ず言い合って眠っています。
- そのままの自分を認める…、大切なことだと思います。そこまでにたどり着くまでにはいろいろな経験と、自信だと思います。
- 自分を否定するようになってほしくありませんが、そのままの自分に甘えるようにならず、向上心をもって育ててほしいと思います。
- みんなと比べてどうか…をととても気にする性格です。「自分は自分、他の人と比べなくていい」とよく伝えていますが、年齢的にもまだみんなと一緒に良いようです。
- 年齢が上がるにつれ、何でも自分が一番になれるわけでないことや、得意不得意、友達と自分との違いなど、色々と理解するようになっていきます。苦手なことであっても、自分の気持ちや努力次第でいかようにも変わると伝え、他人とではなく、少し前の自分と比べてどうであるかを振り返るよう気を付けています。「自己肯定感」をもつことは、そのまま他人を認める心につながると感ずます。その感ずは年齢がなるべく低い頃から保護者が

育むべきものだと思います。本人の性格や個性もありますが、なるべくプラスの言葉がけをするだけで大きく変わると感じます。特に、大好きと慕う人からかけられる言葉には、大きな力があると考えます。自己肯定感はずっと子どもだけの問題ではなく、大人でも抱える問題だと思います。

- 自己肯定感はかなりある方だと思います。両親とも小さい時から「好き好き大好き！大切！」と繰り返し伝えてきました。おかげで甘えん坊ですが…。「どうせ僕なんか…」みたいなことは今のところ一切ありません。これからもこの調子でいってほしいです。
- 子どもの自己肯定感、親の自己肯定感にとても影響していると常日頃思っています。親子で自己肯定感を育む講座があれば受講してみたいです。
- 息子が一番を取ったときや、とても頑張ったときに、心から祝福の言葉をかけると、素直に喜び、嬉しそうな顔をします。これは自己肯定感が高いと感じます。反面、「何々ができたよ。すごいでしょ。ぼくってすごい？」と言ってきたときは、自己肯定感が低く、他人に認めてもらいたい心の渴望なのかな、と感じることもあります。まだ2年生なので、これからいろいろな人と関わることで、物事の考え方や対応の仕方などを学んでいってほしいと思います。
- 自己肯定感他人との関わりの中で育っていくものだと思います。家族だけではなく、友達や先生などとの関係性の中で、信頼関係を築いて他人に認めてもらえる感覚が自分の自信につながって、自分を認めることにつながると感じます。今、仲の良い友達もできて、すごくいい環境の中で学校生活を送ることができていると思います。
- 学校で作成したものを壁に貼ったり、飾っておくと、とても喜びます。一定期間後、本人に戻すと、自分の棚にしまっています。こういうことが、自己肯定感につながっていけばいいなあと思っています。

### 3年

- 自分も友達も大切にできるようにサポートしていきます。
- もっと話をする時間を持ちたいです。
- 本当に大事だと思います。叱ることも多々ありますが、「大好きだよ」「生まれてきてくれてありがとう」という気持ちは言葉にして伝えようと心掛けています。
- 素直だと思いますが、物事を否定的に受け止めやすいです。
- なるべく感情的にならずに叱り、大切なんだよということも伝えつつ、理由を説明しています。
- 苦手なことはたくさんあるものの、そのままの自分を認めている…という点で、自己肯定感それなりにあるように思います。先生方から見た意見も聞いてみたいです。
- 自己肯定感が低い発言が見られたので学校側へ相談をし、ささいなことでも褒めるようにアドバイスを受け、心掛けたところ、気になる発言は減りました。自己肯定感を育てるのは大切ですが難しいです。親子でコミュニケーションを図っていききたいと思います。
- 「ダメなところも全部ふくめて好きだよ。応援しているよ。」と声を掛け、スキンシップを心掛けている。
- まずは褒めることを意識し、親子のコミュニケーションを深めていきます。
- ただ褒めれば良いだけではない、とか、やり方を間違えると優越感を育てることになるとか、なかなか難しそうですが、個人を否定することはせず、過程を褒める…ということなのかな、と深く考えすぎずに育てています。
- 何事も前向きな姿勢で取り組むことが多いので、マイナスな言動はあまり見られません。「〇〇した方がいいと思ったから〇〇した」「〇〇したから上手にできた」と話すなど、自分でも振り返りができるようになってきたと感じます。
- 本人のお友達や家族への関わり方が優しく、公平で、支配的でも従属的でもないところを見ると、きちんと自己肯定感があるようにも思えます。日々の成長の中で高かったり低か

ったりしているようにも感じられます。

- ・「ダメなことはだめ」「目上の人には敬う」「ものを大切に扱う」「弱い者には優しく」これはしっかりと教えていきたいと思います。自己肯定感をなくさせない程度に言い聞かせるという、ボーダーラインが家の中でも分からなくなってしまうことが多いです。親だけでは子育てできなく、学校だけに任せてしまうわけにもいきません。家庭と学校との連携がより取れることにより、より良い結果が出るのではないかと思います。第一は家庭だと思っていますが、学校での生活も長くなってきました。是非温かい目で見てください。
- ・小さいころから、頑張っでできなかつたときは「頑張ったならそれでいいんだよ」と言ってきたためか、運動など他の友達よりできないことがあっても、落ち込んだりふてくされることもなく、自分なりに頑張ったところを話してくれたり見ているようです。
- ・小さいころから自己肯定感を高くもつことができるように接して育児をしてきたつもりではありますが、年齢が上がるにつれ、親の思うようにはいかない部分があると感じます。どうしても共働きで、子どもとゆっくり向き合う時間が取れず、悩ましい部分です。できるだけ本人のことを認め、自己肯定感が育つように普段から接するように心がけたいと思います。
- ・学校で満たされていることから、自分のことが分かり、肯定感が低い言葉が少なくなりました。「はい！」という返事ができるようになり、宿題に意欲的に取り組み、肯定感が出てきたように思います。担任の先生が肯定的に皆をまとめてくれているようで、感謝しています。先生が良く褒めてくれることがすごく効果が表れると思います。
- ・嬉しい報告も、マイナスだなと感じることも話を聞いて共感し、話をしてくれることが嬉しいよ、と伝わったらいいなと思います。
- ・あなたがいるだけでわたしは幸せだと伝えられるよう、あなたが何ができるができてまいが、そんなことは関係ないくらい大切に、大好きで、と伝えられたら。でもなかなか難しいです。
- ・日々の生活の中で仕事で疲れている時は、なお更言い過ぎてしまいます。強く言い過ぎてしまった時は、寝る時や翌朝などに、「ママが悪かった。悪く言ってごめんね。」と伝えるようにしています。自己肯定感を育む大切な時期、子どもに対して否定的な発言をしたり、態度を取ったりしないよう日々気をつけていきたいものです。
- ・自己肯定感が低い大人が多い現代、子どもに自己肯定感を高めてほしいと思ってもなかなか難しいです。たくさん褒め、自信をもたせて、その繰り返しが一番の方法かなと思います。

#### 4年

- ・小さいころから様々な出来事で達成感を覚えることで自己肯定感を身に付けてきたと思います。大きくなるにつれ、その規模も大きくなり、さらに自信につながればいいと願います。自分を否定するようにはなつてほしくありませんが、そのままの自分に甘えず、向上心をもって育つてほしいと思います。
- ・ピアノを習っている娘に「聴く人の心に響くように弾いてみなよ」と言ったら、娘は「まだ練習したばかりだからこれでいいですよ。今の実力はこんなものです」と言っていました。現状の自分をしっかり認めているんだなと感じました。
- ・少しさびしがり屋などところがあるので、よくギュッと抱きしめます。触れていると落ち着くので、不安な時など私に触ってきます。母親の私が安心の源になれてよかったです。生きていくうえで安心できるものが増えていくといいなと思っています。
- ・自分の世界観をもって、他人と違うところがあると思っています。良いところをどんどん引き出せるような、規則を教えるだけでなく、自由な意見を話し合える授業を希望します。
- ・自分のことは大切に思っていると思いますが、悪く言えば自己中心的。その分他人に対し

ては否定的な言動があるので、心配してしまうときがあります。

- 日頃の生活や会話のなかで「自分を大切にね」「自分の力を信じてやってみよう」と伝えるようにしています。成功体験をすることで自分を認められると思います。
- テストのまちがいを訂正させようとする、すぐ「どうせ～」とか言ったりします。気持ちを盛り上げるまで親が疲れることもあり、励ましながら直しをさせています。得意なことで自信を付けさせ、もっと自分を信じさせたいなと思っています。
- 眠る前に楽しいこと、家族のこと、空想でも話しながら寝るようにしています。
- 小さい弟がいて、まだ手がかかるので、本人からすると自分のことをあまり見てくれないと思うのか、「自分なんかいなければよかったんだろう」と言うときがあります。本人には、大切に思っていることを伝えるのですが、年の離れた兄弟の子育ての難しさを感じています。
- 自分に自信をもつこと、努力したらできるようになった、前向きな気持ちになること、が大切だと思っています。何かに失敗してしまった時や、自信がない時は、一緒に考えながら励ましていけるようにしていきたいと思います。
- 「どうせできないし」「苦手だもん」と自信のない言葉を言うことが多いです。それぞれ得意なこと、苦手なことがあるし、とにかく苦手なことでも頑張ることが大切、ということをお伝えしているつもりです。が、やはり自信がない様子が見られるので、今後も励ましながら見守っていききたいと思います。
- なるべく他の子と比較するような発言はしないよう心掛けています。人を大切にできることが、自分を大切に思う心につながることを伝えていきたいです。
- 「お母さんの子どもに生まれてきてくれてありがとう。大好きだよ。とても大事だよ。」と毎日伝えるよう心掛けています。昨今のひどい犯罪も、自己肯定感の低さや競争社会の弊害から起きているのでは…と考えます。大人の社会でもいじめがあります。弱い者いじめは本当にひどいです。子どもも大人も、自分も他者も大事にし、お互い認め合い、助け合って、幸せな気持ちで皆が生きることができるといい社会になってほしいものです。
- 強い自分だけでなく、弱くて小さい自分のことも好きになってもらいたいです。その手助けをするのが大人の仕事で、親の義務ではないかと思っています。
- 自分を優先に、ありのまま、本望のままに生活している気がします。
- 本人自身が「自分の存在」自体を意識したことがあるかも疑問です。まだ他者と比較することでしか自分を見ることができていない状態なので、自己肯定感を認識するには幼いかなと思っています。ですが、今のところ、前向きな行動、考え方をしているので良いのではないかなと思っています。
- 自己肯定感は大人でも難しい問題だと感じます。やるのが遅い→丁寧など、プラス思考な子になってほしいと願っています。
- がんばれば頑張った分、自分に返ってくることを知っている、「これをがんばる！」と決めたらやり遂げる子なので、いつまでもその心意気をもって取り組んでほしい。
- いろいろな言葉や意味、感情を理解してきたからか、周囲からの声も気になることがあるようです。自信があるようではないですが、自分の好きなこと、楽しいこと、嫌なこと、苦手なことを分かっており、受け入れているようです。もちろん、まだいろんな気持ちをコントロールするのは難しいようですが、進んだり立ち止まったりしながら成長していると感じます。

## 5年

- 自己肯定感は低いように感じます。失敗して落ち込むことを恐れていますし、意見や考えを否定されると怒ったり泣いたりして感情的になってしまいます。
- 学校でも、個々を尊重し、たくさん認めてもらい、生き生きと楽しく過ごしてほしいと願っています。

- ・勉強は嫌いですが、自分のことは大好きです。今はこれでいいと思います。
- ・子どもたちの考えを聞いて、受け止めてくれて、チャレンジさせていただき、先生方には感謝しています。
- ・運動会の組体操を「楽しかった」と言って何度もビデオを見せてくれたり、家庭科で習ったゆで卵を家で作ってくれたり、生き生きと話してくる姿を見て自己肯定感が高い方かなと思います。
- ・自分を大切に思う心があると、人にも優しく接することができると思います。親に認めてもらうことで、ありのままの自分を受け入れ、認めることができるのではないかと思います。忙しいと褒めることを忘れがちです。一日一回は子どもの良いところを褒めてあげたいです。
- ・他人とのふれあいがあって、年配者への尊敬や、年下の子への慈しみを知る。他人への関心なしには自己形成はなされません。たくさんの人との触れ合いを経験できるよう、場所や時間、機会を与えたいです。他人と関わっている親の姿も我が子に見せるよう、日々努力しています。「親は子の鏡」を肝に銘じて子どもと接しています。
- ・自分をよく知って、色々と認めて、自分自身を好きになって、良い意味でプラス思考、ポジティブでいてほしい。褒めてあげることが大事だと思っていますが、なかなかうまく褒めてあげられていないかもしれません。
- ・自分に自信はないが、理想は高い。家では自分の意見や考えを言えていると思う。
- ・疲れたり壁に当たったりすると自己肯定感が少なくなるような気がします。でも先生や大人の声かけ一つでやる気が出たりできそうな気がしたり、力をもらっています。特に思春期は揺らぐことも多そうなので、周りの大人が見守っていければと思います。
- ・人の意見や行動にとっても敏感で、自分はこれでよいのか？と少し自信がないように感じます。自信をもっていいんだよ、と言いつつ聞かせますが、悩みも多いようです。発表しても恥ずかしくない、意見を言って褒められる雰囲気が自然になっているクラスになるといいです。
- ・兄弟や他の子と比較しないこと、本人の頑張りをちゃんと見守り「頑張ったね！」としっかり認めること、結果だけにとらわれず、過程を重視し励ますこと、少しでも向上したらしっかり本人に「できたね！すごいね！」と伝え、共に喜ぶことを繰り返していきたい。学童期から思春期に、しっかりと本人の自己肯定感を育て、社会で生きていける人間になってほしい。
- ・成長と共に言葉遣いなど変化してきますが、日ごろから家族の誕生日などのイベントには必ず手紙を書いてくれます。上手な文章でなくとも、優しい気持ちが感じられます。将来、友達や困っている人などを助けられるような、相手の気持ちが分かる優しい子になってほしいです。
- ・小さなことでもオーバーに褒めるようにしています。そうすることで前向きな考え方ができるようになるかなと思っています。そして自分が存在している意義も肯定できるのではないかなと思っています。
- ・言葉づかい、マナーの教育があるとよいと思います。
- ・幼稚園の頃から「家庭でたくさん褒めてあげて」と話されていたので、ちょっとしたことで褒め、自己肯定感が高めだと思う。5年生になって反抗的になったが、自分の良いところ悪いところを話すことができている。
- ・5年生になった今も、周囲に比べてゆっくりなところもありますが、引き続きありのままの姿をまずは認め、受け入れてあげたいと思います。「できない子」「うるさい子」などのレッテル貼りをされていないことを願っています。自己肯定感と自己有用感は大人になっても大切だと思っています。自己肯定感があってこそ、めあてをもつことができたり、喜んで登校したり、学校が楽しいと思えるのだと思います。
- ・どうしても姉妹で比べてしまい、「お姉ちゃんはできているのに…」と言葉には出しませんが「あれがやれてない」「それできないの」と責めがちです。そうすると（僕はできて

ない（できないんだ）と自信を無くしますね。まさしく「自信がない」日々です。言葉がけが大切だと思うので「励ます言葉」「褒め言葉」を意識したいこの頃です。

- ・人と比べてコンプレックスを感じていることもあるようですが、それほど深く考えているわけではなく、親としては違い＝個性を子の成長だとほほえましく感じています。親子の会話もあり、出来事も考えたことも話してくれるので心配はないです。
- ・今の子どもは、世の中が幸せ過ぎて何でもあるし、不自由しないので、何が大切なのか分かっていないのか考えてしまいます。
- ・「自分を大切に」は小さいころから伝えてきたつもりですが、普段の生活での注意や小言が多く、そのままの自分を認められる育児はできていないかもしれません。子どもを見ていると、自己肯定感ではなく、プライドが高いと感じることがあります。
- ・劣等感を強くもってしまうと自己肯定感も低くなってしまおうと思います。でも、クラスの皆が認めてくれる「何か」があると自己肯定感は高くなると思います。勉強面・生活面・運動面、どの場面でもいいので、一生懸命やれる環境も大切だと考えます。一人一人にいろいろなチャンスを与えてもらえるクラス作りに賛成しています。

## 6年

- ・その子その子違うので、比べず、できるだけ褒めるように。宿題などでは、良いところも見付けて褒めるようにしています。ささいなことでもお礼をたくさん伝えるようにしています。
- ・先生に褒めていただいたりすることで自信がついたんだろうなと感じることがありました。家では褒めることが少ないので助かります。振り返りで一人一人のカードを見てくださり、先生のコメントが励みになっているようでありがたいです。
- ・20歳ぐらいの学生の悩みを聞いていると、小学校の時から親や先生に問題児扱いされ、怒られるばかりで褒めてもらえなかった、どうせ私は何をやっても無駄だ、できない、と言います。しかし彼らなりに不器用ながらも頑張っている、それを周りの人に受け入れてもらいたいのだと思います。子どもに寄り添ってありのままを受け止めてあげることが大切だと学ばせてもらっています。家庭では、自分は必要とされていると思う心（自己有用感）を育ててあげたいと思い「ありがとう」「助かるよ」などの言葉をたくさんかけるよう心掛けています。
- ・一度言い出したらそれを通し切ることが多くなったような気がします。友達仲間の中ではどうなのか？と気になるところです。反抗期だからと見過ごして良いものかと迷っています。
- ・本人のやる気を引き出すためにいろいろ考えているのですが、勉強に対する欲がなく、今後勉強に対する達成感など感じることはできたらと思っています。
- ・自分の良いところを認め、積極的に取り組むことができていると思います。ただ、自分を大切に思う心が、自分の弱い面を指摘されたり、ばかにされたりすることで、時々弱くなってしまうことがあります。直していくべきことは、少しずつ努力し、言葉づかいが悪いことで、周りも自分も傷つけることがあるので、気を付けるよう促していきたいです。
- ・ネガティブな発言が多いと思う。自分が好きなことには自信をもって取り組んでいると思う。
- ・もう少し高くもってけるといいなあと思います。それによって、誰かのために何かをするとか、好きなことを貫いていくとか、そういうことができるといいなあと思います。これからは親として、「子どもが大切な存在」であることをいろいろな方法で伝えていきたいと思っています。
- ・大人になってもそう思えなかったり、悩んだりすることだと思うので、子どものうちから感じられるように、親が努力することが大事ではないかと思っています。そのうえで、学校でも先生から認めてもらえたら、さらに子どもの感じると思います。